



子どもセンターののさん

News Letter No.1

ごあいさつ



皆様の温かいご支援、ご協力により、子どもセンターののさんは、本年6月24日に京都府に対しNPO法人の認証申請、同月25日に設立記念シンポジウムの開催と、歩みを進めることができました。

設立記念シンポジウムの記念講演では、東京の「カリヨン」理事長坪井節子弁護士が、子どもたちの悲惨な現状と子どもたちに一生懸命に寄り添おうとされている実践を熱く語られ、さらに元気をいただきました。また、シンポジウムでは、東京の「カリヨン」、神奈川の「てんぼ」、愛知の「パオ」、岡山の「モモ」、広島「ピピオ」の全国の子どもシェルターからお越しいただき、シェルターに注ぐ情熱とともに、入所した子どもたちへの援助そして自立につなげることの難しさを改めて学びました。

シェルターとなる建物はご厚意により借りる見通しがつき、改修費についても助成金の目途がたちつつあります。しかし、子どもたちに寄り添うスタッフやボランティアの募集、養成はこれからですし、何よりもスタッフのお給料等の資金がありません。シェルター開設のためには、いろいろな方の支援、資金、物が必要です。子どもセンターののさん設立準備会のメンバーは、引き続き全力を尽くして参りますが、是非、様々な方面からのお力添えをお願いします。

2011年9月10日
子どもセンターののさん 代表
弁護士 安保千秋

●「ののさん」シェルター、準備が進んでいます！

2011年6月25日の設立記念シンポジウムには、多くの方にお越しいただき、ありがとうございました。シンポジウム直前から今日にかけて、現時点の準備状況をご報告いたします。

NPO法人設立の申請は、6月24日に完了しました。役員(理事・監事)も後記のとおり確定しました。設立申請については特段問題点、修正すべき点の指摘は受けておりませんので、4ヶ月以内には認証がなされる見込みです。

シェルターの候補となる建物については、すばらしい物件が見つかりました。子どもたちの安全を守るためにシェルターの場所は非公開とさせていただいていることから、みなさまに詳細をお知らせすることができず残念ですが、立地、広さ、設備とも申し分ありません。「羽を休める場所」が必要な子どもたちにとって申し分のない物件だと、胸を張っています。しかも、所有者の方のご厚意により、破格の好条件でお借りすることができそうです。

また、物件をシェルターに改修するためには多額の費用がかかりますが、これについても公益財団法人に助成金の申し込みを行ったところ、極めて前向きなお返事をいただきました。皆さまのお気持ち、熱意が伝わった成果です！ありがとうございます。正式な助成決定を経て早速改修に取りかかり、安心・安全で快適なシェルターを作っていきます。

さらに、シェルタースタッフ(正職員、有償・無償ボランティアスタッフ)の確保に向け、研修企画を準備中です。

また、「ののさん」をアピールし、支援の輪を広げるため、さまざまなチャリティイベントを企画しております。

こうしたさまざまな事柄を迅速かつ円滑に進めていくため、総会・理事会とは別に、ののさん運営委員会を設置して議論をしています。

このように、シェルター開設に向けて、着々と準備が進んでいます。

引き続きみなさまのご支援ご協力をお願いします！

● 理事・幹事、事務局のご紹介

ののさんの役員(理事・監事)、事務局は、以下のメンバーです。シェルター開設に向け一同精一杯がんばりますので、宜しくお願いします！

【理事】

安保千秋(理事長、弁護士)
有井悦子(有井小児科医院院長)
石塚かおる(児童養護施設つばさ園園長)
浦田雅夫(京都造形芸術大学芸術学部こども芸術学科専任講師)
桐野由美子(副理事長、京都ノートルダム女子大学生活福祉文化学部教授)
小町崇幸(弁護士)
塩津千穂子(株式会社 CHEZ LA MERE 代表取締役)
柴田長生(元京都府京都児童相談所所長)
丹良一(元京都市児童相談所所長)
西村友彦(弁護士)
平田真貴子(京都いのちの電話事務局長)
吉田明弘(皇學館大学教育学部准教授)
吉田雄大(副理事長、弁護士)

【監事】

瀬口絵美(税理士)
米澤一喜(弁護士)

【事務局】

吉田雄大
衣川民子(元乳児院職員)

● 現在の会員数(正会員・賛助会員)

2011年8月9日現在、正会員36名、賛助会員45名(うち法人会員3名)の方々にご入会いただいております。ありがとうございます。

● 寄付・助成の御礼

これまで数多くの方々から寄付をいただきました。ありがとうございます。1日も早い「ののさん」シェルター開設に向け、一同がんばっていきます。今後とも宜しくお願いいたします。



・6月25日に行われた「子どもセンターののさん設立記念シンポジウム」には、全国子どもシェルターから、メンバーの方々が応援に駆けつけてくださいました！皆さんに御登壇をいただいて、東京・カリヨン子どもセンターからは、職員の方が実際に関わられた事例等を、横浜・子どもセンターてんぽからは、シェルターから次のステップに行きたいというエネルギーを子どもたちにどう蓄えてもらうか、という今後の課題等を、名古屋・子どもセンターパオからは、子どものニーズに合わせて構想されたステップハウス（シェルターと自立援助ホーム

の中間的な施設)の設立予定等を、岡山・子どもシェルターモモからは、子どもたちがシェルターを出た後、どのようにその自立を支援していくかの課題等を、そして、開設したばかりの広島・ピピオ子どもセンターからは、シェルターを企画されてから一気に設立まで駆け抜けたスタッフの皆さんの盛り上がり等をお聞きし、あわせて、皆さんからののさんへの励ましの言葉もいただきました。ありがとうございます。先輩シェルターからの熱いメッセージで、ののさんも元気いっぱいです！



・特別ゲストの佳卓さんによる創作日本舞踊。艶やかな舞に会場の皆さんもうっとりでした。



・ライブペインター「TOMOE・U・」&「smilepainter Cha-ta」の2人により描かれた絵を背景に記念写真

● Tシャツ、缶バッチのご案内

当日はTシャツ、缶バッチなど販売も行いました。引き続き販売しております。



ののさんオリジナルTシャツ（1着 2,000円、サイズは150、160、S、M、L、LL、O、XL）、
ののさんオリジナル缶バッチ（1個 200円）を販売しております。
お買い求めご希望の方は事務局（電話 075-252-0086）まで。

6月25日に開催された子どもセンターののさん設立記念シンポジウムの基調講演、坪井節子先生の「子どもたちに寄り添う～子どもシェルターの現場から」、紙面の都合でほんの一部ですがご紹介致します。

「子どもたちからの相談はどうしていいかわからないことばかりでしたが、最も困ったのは今晚帰る所がないというものでした。親が引き取ってくれず少年院送致になってしまう非行少年。もうあと一発だっって親に殴られたくないから家を飛び出してきた子。

東京の一時保護所はいつも定員オーバーです。小さな子どもの保護を優先する為比較的年齢の高い子は入れないし、子どもも集団生活をするくらいなら野宿の方がマシと言います。女の子は、いいよ携帯で男みつけるから、男がすぐ泊めてくれるから、と。

ご飯を食べて安心して眠れる、子どものシェルターがどうして無いんだろうと思いました。

シェルターを知ってもらいたいという思いで、弁護士と子どもが毎年一緒にするお芝居でシェルターを取り上げました。これがきっかけでシェルターを作る準備が始まり、多くの方から寄附が集まり、夢だったシェルターが出来上がったのです。

7年間で、190名の子どもが旅立って行きました。非行の子や養護施設からの子どもが多いと思いましたが、家庭から直接来る子、16歳、17歳の女の子が一番多いです。

子どもたちは、長い間虐待を耐え抜いて心身共にボロボロです。シェルターに来て数日間は様子をみていますが、その後は暴力暴言等色んな試し行動をします。大人にできるのは、せめて子どもを1人にしないこと。色んな大人がスクラムを組んで子どもをぎゅっと抱きしめるのです。

約2か月の滞在期間中、子どもたちがどこかでふと心を開く事があります。ある子は、風の音や雨の音が聞こえるよ、と言いました。初めて空見たよ、木漏れ日ってきれいだね。扉を開けたら夕御飯の匂いがする、いいね。どんな子も本当は生きていたい、愛されたいのです。

子どもたちに、この世には楽しいが事たくさんあるんだよと教えたくて、スポーツ、お芝居、ピアノ…大人と1対1で思いっきり遊ぶ、カリヨンハウスという事業を始めました。

シェルター、自立援助ホーム、カリヨンハウス。カリヨンの次の夢は、働くこともできず学校にも行けない病んだ子どもたちが暮らすところです。

シェルターが必要な子どもは東京だけじゃない。てんぼ、パオ、モモ、ピピオ…弁護士や市民が地域で子どもを守ろうとしています。そして、シェルターが児童福祉法の中に位置付けられ、補助金が出ることとなります。

しかし、私たちは私たちの活動を一步も後退させない。制度がないからできないということには絶対にしません。ののさんがめざすシェルターの無い社会、私もそんな社会になるよう願っています。」



● ご支援 ご紹介

・6月25日シンポジウムで、株式会社せのや様から、『いちびり庵 あん珈琲』を株式会社シェ・ラ・メール様から『カステラ&クッキー』をご提供をいただき、その売り上げをご寄付いただきました。大好評でした、ありがとうございます！また両社のご厚意により、参加者全員に「マリーゴールドの苗」をお配りしました。子どもシェルターの取り組みが「花咲き」ますようにという願いをこめてお持ち帰りいただきました。

■株式会社せのや

大阪市中央区難波1丁目7番2号
tel.06-6211-0685 fax.06-6211-0686

■株式会社シェ・ラ・メール

京都市中京区寺町通美川上ル西側
tel.075-241-0765 fax.075-241-0719

— お願い —

ぜひ、私たちの取り組みを支えてください。

賛助会員 個人1口(年間)3,000円、法人1口(年間)10,000円

振込先 京都銀行寺町二条支店 普通預金 3645625

京都子どもシェルター設立準備会会計吉田雄大

振込後下記(吉田雄大)へFAX又はメールお知らせください。

FAX: 075-252-0087 / メール: tyoshida@key.ocn.ne.jp

— 学生ボランティア —

種智院大学 皇學館大学 京都文教大学 京都造形芸術大学

応援メッセージ 1

昨今テレビやラジオで現在は家庭や地域社会でのコミュニケーション欠落の時代であると見聞きします。また青少年による犯罪や残虐な事件のニュースを見ると胸に迫る思いがこみ上げます。何かの歯車がおかしくなっているのか？ そういえば私たちが子どもの頃、地域には必ず怖い大人がいました。何か悪いことをすると必ず「コラッ!!」と怒鳴るおっちゃん。学校からの帰り道「おかえり」と声をかけてくれる近所のおばちゃん。今振り返ると私たちは地域社会に温かく見守られ、教育育てられていた気がします。私自信も紆余曲折した時がありました。その時に方向修正できたのは師のお陰です。人生における師との出会いがなければ今の私は無いと言っても過言ではありません。人は1人では生きていけないとつくづく感じます。この度、恩返し之意もあり、ののさんに参加させて頂きました。私のように人生を変える師との出会いが、子どもたちにありますようにと願いをこめて…



山本宗禅氏

京西陣 菓匠 宗禅 店主

応援メッセージ 2

『皆様の活動に寄せるメッセージ』

ただ1人、社会の片隅に追いやられたお子たちの気持ちを思うと、胸締め付けられ、心暗くなります。どこかに頼り、寄り添って行きたくても、行き場のないお子たち… 誰かに覗いて貰いたい心を持ったお子たち… 広い社会で、置きどころのない思い、悩みを持ちながらも、投げやりになりがちな気持ちを健気に抑えながら、「何時かは…」との、小さな小さな望みを持ちながら生きているお子たち…。若し自分の子が、その様な状況、気持ちで生活していたら…と思うだけで、心が締めつけられます。そっと寄り添い、小さな背をそっと後押しできるのは、大人の私たち…。1人でも多くのお子たちを、寄り添える場に迎え入れ、新しい旅立ちの手助けができるのは、大人の私たちでは無いでしょうか。お子たちは、私たちの宝物です。みんなの宝物です。小さくひかり輝く宝物です。小さな宝物の頑張りに、私たちの小さな力を集めようでは有りませんか。



大熊章悦氏

OHKUMA企画

あととりさんを育てる…人間力向上お手伝い人

なにわ名物開発研究会 監査役



「吉田明弘の「出逢えてよかった！」」

ゴスペルが救ってくれた私の人生～歌う元ヤン～
村山由衣（むらやま・ゆい）さん / 25歳



明弘：由衣さんのプロフィールをおしえてください。

由衣：私は1985年生まれで、現在、夫と2人の子供と暮らしています。小学校1年生ぐらいからピアノと少林寺拳法を始めました。親子関係がこじれて、両親に反発するようになったのは中学生2年生頃からです。両親がケンカばかりしていたので、その疎外感もあって“万引き”をしたのが非行のはじまりです。ピアノの全国コンクールにも出ていたし、ほんとうは音楽科のある高校にこうと思っていたんだけど、結局別の学校に進学しました。私にはその高校が退屈で、気の許せる友だちもいなかったから、不登校になりました。学校は月に3～5回いく程度だったかな？17歳の時にヤンキーの彼氏ができたことがきっかけで暴走族に入り、やがてレディースの総長になります。それで、高校にもいなくなってしまいました。自分でいうものも何ですが、私は「正義感のあるヤンキー」(笑)だったので、メンバーには「シンナーや援助交際はぜったいにアカン！」と行ってきました。後輩からの相談なんかにちやんと乗っていましたね。でもサツ(警察)は、私といるだけで、そんな後輩までも“悪人”扱いして許せなかったです。その頃の私は、先生や先輩に裏切られて傷つき、人間不信になって、“出会い系サイト”に手を出したこともありました。その後、18歳の時に出会った彼氏(現在の夫ですが)が、身を張って私を暴走族から抜けさせてくれて、いまは子育てをしながら、ガソリンスタンドで働いています。この前は、会社の接客コンテストで「最優秀賞」をもらいました。

明弘：そうすると由衣さんを「更生」へと導いてくれたのは、いまのパートナーですか？

由衣：そういっても過言ではありません。でも、ゴスペルグループに参加したことも大きいと思います。ゴスペルをやろうと思ったのは、もともと音楽が好きだったこともあるけど、ステージを観て心打たれて、すぐに「自分も舞台に立ちたい」という気持ちになったんです！入って間もないそのグループで、偶然にもプロのミュージシャンのバックでピアノ伴奏させてもらう機会を得て、泣くほどうれしかったです。だって新入りの私の腕を無条件で信頼してくれたんですから…。ゴスペルをはじめてまだそんなに経ってないけど、「私の辛かった過去」を涙を流しながら聞いてくれる仲間がたくさんいて、いまは元ヤンだった自分の姿を正面から見つめられるようになりました。中学校を卒業してから後、いろいろとつづかっていたことや辛いことがたくさんあったけど、いまはそんな日々があったから、素敵なゴスペルの仲間たちと出会うことができたと思っています。ゴスペルグループには、老若男女いろいろな人がいるけど、みんなで歌っていると、辛いことも悲しいことも喜びに変わっていくから不思議です。さいきんでは、メンバーの何人かと児童養護施設や知的障がい者施設にボランティアで歌いに行っています。

明弘：かつての由衣さんと同じような境遇にある子どもたちに対して、どんなことをいってあげたいですか。

由衣：「きっと傷ついたあなたは人の痛みがわかる人間。スポンジのように穴だらけになったアナタの心には人の優しさがよ～く染みるはず。これから生きていく中できっとあなたを理解してくれ、いっしょに歩んでくれる人に出会えるはず。自分が救われた後、また誰か傷ついた人に出会えたとき、あなたがその体験を笑顔で語れば、傷ついた人の勇気になるかもしれない。私の体験より、今のアナタのほうが、ずっと辛いかもしれない。でも私の体験が少しでもあなたの希望になれば、私が傷ついてきたのは、きっとあなたに出会うための準備の期間だったんだと思います。その時、私の心から喜びが溢れることでしょう。幸せになるんやという強い意思を忘れないで」といってあげたいです。

明弘：お話をうかがってきて、人との「出会い」の中で人生が変わっていくことを実感しました。これは僕なりのとらえ方ですが、ゴスペルが表現している「博愛」の精神が、もともと由衣さんの志向性の中に備わっていたのではないですか？それにしても「正義感あるヤンキー」というのが気に入りました。僕の「教え子」にも「正義感あるヤンキー」がいましたが、実に人間として魅力がありましたね。ところで、今後の由衣さんの夢をおしえてください。

由衣：最初に話しましたが、いまはガソリンスタンドで働いているんです。お客さんと接するのが楽しくて仕方がありません。さらに接客の技術をみがいて、あちこちのガソリンスタンド回って、売り方のコツを指導する講師になるのが夢なんです。非行少年が社会復帰するといっても、あいさつや態度がちゃんとしていないと雇ってもらえませんしね…。「愛情」で包みながら、子どもたちを育てていくのが私の夢です！自分にできることは限られているけど、子どもシェルターの意義を知って、「子どもセンター・ののさん」の取り組みを私なりに応援したいと思っています。

明弘：さすが「正義感あるヤンキー」ですね！由衣さんの今後のご活躍に期待しています。今日はありがとうございました。

聞き手：皇學館大学准教授 吉田明弘

編集後記

News Letterを制作させていただいています。京都造形芸術大学子ども芸術学科副手の亀井です。7年くらい障がいのある方のアートサポートをしています。常に「寄り添う」ことを大切に過ごそうと心がけています。この読み物もそうなることを祈ってます。(ka)

発行 子どもセンターののさん

News Letter 1号 2011年9月10日

〒604-0827

京都市中京区高倉通二条下瓦町 555-1

西村良ビル3階 あかね法律事務所 吉田雄大

TEL：075-252-0086 / FAX：075-252-0087

メールアドレス：tyoshida@key.ocn.ne.jp